

(様式第8号)

長野県みらい基金 信州の特色ある学びを实践する事業・団体助成プログラム
助成対象事業実績報告書

R6年 12月 12日

公益財団法人

長野県みらい基金 理事長 様

申請者 所在地 長野県下伊那郡泰阜村 6342-2

団体名 NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター

代表者 職・氏名 代表理事 辻 英之

※押印は不要です

「長野県みらいベース」において当団体が掲載した「信州の特色ある学びを实践する事業・団体助成プログラム」について、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業名

児童養護施設のこどもたちに「自由なキャンプ」を！

2 助成対象事業の実施期間

R6年 4月 1日 ～ R6年 12月 12日

3 助成対象事業の内容

児童養護施設一宮学園で暮らす小学生を長野県泰阜村に招待し、こどもが主役となって、食事を作り、プログラムも考えるキャンプ体験を実施する

4 事業の成果

小学生9名が参加。3年目の活動となり、複数回参加していたこどもが他のこどもたちの体験を後押しするなど回数を重ねたことでの変化と成長が見られた。

5 助成対象事業の実施状況を示す書類（添付）

- (1) 助成対象事業収支計算書
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類
- (3) その他参考となる資料

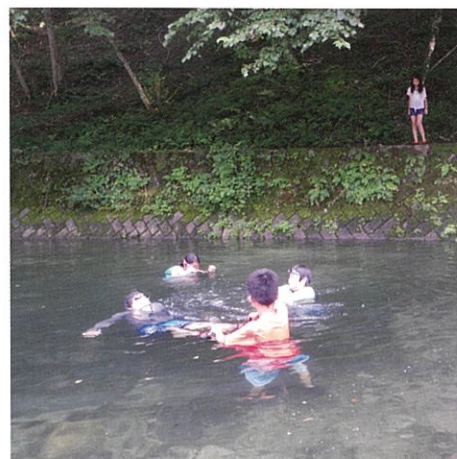
(様式第 8 号)

助成対象事業 収支計算書

区 分		金額（円）	内 訳	
収 入	① 本助成金	350,080 円	貴団体への単独寄付 342,000 円/全体・ 分野寄付からの按分 8,080 円	
	② 自己資金 会費、事業収入、 寄付金など	48,006 円	一宮学園負担分（参加費）	
	① その他			
	収入合計	398,086 円	（ A ）	
支 出	助 成 対 象 経 費	企画準備費	80,000 円	キャンプ準備に係る費用
		スタッフ人件費	264,000 円	運営及び事務スタッフ人件費
		消耗品	10,356 円	ランタンガスなどキャンプ使用物品
		食材費	26,383 円	キャンプの食材
		宿泊費	2,600 円	キャンプ場使用料
		保険代	5,317 円	参加者、引率スタッフ分
		印刷・通信費	9,430 円	報告書印刷、発送費
		――	――	――
		計	398,086 円	（ B ）
	助 成 対 象 外 経 費			
			――	――
	計	0 円	（ C ）	
	支出合計	398,086 円	（ B ） + （ C ） = （ A ）	

(様式第 8 号)

※上記報告書の裏付けとして、領収書のコピーを添付してください。



初日の山賊会議で全員のやりたいことを30個ほど出し合いました。早速その夜から、肝試しと野宿にチャレンジ。2泊3日の限られた時間でしたが、最も時間が取れる2日目も天候に恵まれ、川遊びや沢登り、工作、ドラム缶風呂、キャンプファイヤーなど、たくさん遊ぶことができました。自分たちでメニューを決め、かまどを作り、包丁を使って作ったご飯もみんな協力して作っていたのが印象的でした。山賊のおきて「チャレンジが基本だ」を体現したキャンプを実施できました。

◎ 開催情報

実施日：2024年8月20日（火）

～22日（木）2泊3日

◎ 参加人数 13名

内訳
 小学3年生 2名
 小学4年生 3名
 小学5年生 1名
 小学6年生 2名
 中学2年生 1名
 引率スタッフ 4名

○ こどもたちの声

長野キャンプで1番楽しかった事は肝試しです。私は怖がらせ役で、テントの中からバンバン叩いて助けてと叫ぶ役をしました。怖がらせ役は6人でした。2回目はあまり怖がらせることが出来ませんでした。原因は道を間違えて歩いてきたので隠れている怖がらせ役が見えてしまったことと怖がらせ役もライトを持っていたのであかりでばれてしまったことです。みんなで作戦会議をしました。今度は道案内する役をつけて、ライトをつけないで待つことにしました。隠れる場所も変えてみました。

2回目は大成功でした。みんなとても驚いていて、しがみつき合いながらキャーと高い大きな声で叫んでいました。とても面白かったです。来年も長野キャンプに行きたいです。もしも行けたら、今度はおどかされ役をやりたいです。(小4)

川の水が冷たくて気持ち良かったです。滝もあって楽しかったです。お料理のメニューを決めるのが大変だったけど、楽しかったです。初めて火をおこして火がこわかったです。肝試しでは夜に出歩くのは普段できない体験だったので怖かったけど面白かったです。初めてのキャンプはとても楽しかったです。また来年も行きたいです。(小3)

着いたら三日間何をするかを決めました。僕は水鉄砲を作りたいと工作をしたいと言いました。その後もみんながやりたいことをいろいろ話してやりたいことを決めました。夜はキャンプの人が作ってくれたカレーを食べました。トマトがまるまるいっこ入っていたけど、妹が隣にいたから頑張って食べました。それで少しトマトが食べれるようになりました。その後は怖い話をしました。最初はちょっと恥ずかしかったけど何とか話せました。2日目はご飯を自分たちで作って食べました。僕は火起こしをしました。元はうまくいかなかったけど、何回もやったらできました。時間がかかってできたので、朝か昼かわからない位でした。工作では竹を使って水鉄砲をつくりました。それを使って川で遊びました。とても楽しかったです。(小6)

午前中は自由時間になったので、川遊びチームと工作チームに分かれて遊びました。僕は川遊びチームに行き、滝からの飛び込みです。去年も飛び込みをしましたが、やっぱり1番楽しいです。お昼ご飯はパンと魚肉ソーセージです。ご飯を食べ終わったら山にのぼって魚取りに行きました。しかし、魚はどこを探してもいませんでした。その後はのんびりチームと遊びチームに分かれました。また僕は、川遊びチームに行きました。この川遊びでは滝行をしました。行く途中に魚がいてリベンジしようとしたんですが、動きが早くて捕まえられませんでした。2日目もたくさん川で遊び、夜ご飯の準備をしました。なんと夜ご飯はバーベキューをしました。その夜は雨が降りそうだったので、キャンプ場にある大きなテントで寝ました。(小4)

皆さまからのご寄付のおかげで9名のこどもたちにキャンプの体験を提供することができました。こどもたちが書いたキャンプでの思い出作文を一部抜粋してご紹介いたします。

川が楽しかった。最後の日肩まで入れたのが楽しかった。ご飯がたくさん食べられてよかった。いろんなのがおいしかった。お野菜を上手に切れてよかった、テント中で寝た。3日間たのしかったです。(小3)

肝試し怖い話もしました。楽しかったです。2日目は朝ごはんを作りました。火を担当しました。立っているとすねが熱かったです。朝ご飯を食べて川に入りました。楽しくて、空を飛んでいるような気持ちになりました。夜キャンプファイヤーをやりました。楽しかったです。3日目は朝起きて2日ぶりのシャワーを浴びました。最高でした。(小5)

長野のキャンプでは初めに肝試しをやり、僕は驚かせる役割だったのでカゴの中に入りみんなを驚かせました。その日は時間も遅かったため、肝試しの後はテントで寝ました。次の日は朝からご飯作りをしました。みんなで作ったご飯はとてもおいしかったです。次に川遊びをしました。自分で作ったいかだに乗るとすぐに壊れてしまい悲しかったです。午後には沢登りをし魚は取れませんでした。大きなカエルを見ることができました。その後もかわ遊びをし、ラッコ泳ぎをしたりし、夕方にはドラム缶風呂に入りました。暖かくてとても気持ちよかったです。夕食でバーベキューをし、かぼちゃの煮物をおいしく作ることができました。みんなで沢山笑い楽しい時間となりました。僕は長野キャンプで楽しい夏の思い出を作ることができました。また行きたいです。(小6)

たくさん楽しいことがありましたが、特に楽しかった事を2つ挙げます。1つは川遊びです。みんなと水の掛け合いをしました。川の水はとても冷たくて、唇が紫色になっている子もいました。水がとても綺麗で透明でした。たくさん水をかけられたし、私もたくさんかけました。その頃には水の冷たさを忘れて楽しんでいました。2つ目は肝試しです。女の子3人でライトをつけずに暗闇の道を歩きました。道沿いにあるテントの近くを通ると、頭の中からバンバンと言う音と助けてと言う声がしてびっくりしましたが、1番怖かったのは暗闇から急に人が近づいてきて「すみません。ライト見ませんでしたか」と声をかけられたことです。私はキャーと叫んで逃げました。来年も長野キャンプに行きたいです。(小4)

帰った後は満足な気分でした。左京川キャンプ場に行って、改めて自分ができることは自分ですなどいろいろなことをこなそうと思いました。で、何より自然との関わり方は一宮町に戻っても深く見直そうと思いました。時事的ですが、今回行った人たちがちょっとでも自然を大切にする努力をしてほしいと思いました。後は新たな経験をこれからの生活に生かそうと思います。最後に改めて本当に貴重な経験をさせてもらい本当にありがとうございました。(中2)

○ 職員インタビュー

こどもたちが暮らす一宮学園のことや、キャンプに参加した際のこどもの様子を職員の鈴木一馬さんに伺いました。

一宮学園はどんな施設か教えてください。

一宮学園は複数の宿舎が集合している本園と宿舎が個別で設けられている分園と大きく二つの形態に分かれています。昼間は地元の学校に登校しています。男女別で暮らしていて、一つの宿舎の中に高校生から未就学児までの6人が暮らしています。異年齢縦割りに混ざっているのは、年齢だけで分けてしまうと人間関係が固定化してしまうからです。多様な関係性が、寛容さや思いやりを育て、社会に出た時の一助になるのです。

こどもたちは学園でどのように暮らしていますか？

掃除や洗濯、食事は職員が行っています。こどもたちがやらないといけない決まりはありません。たまに手伝ってくれる子もいますが、ごく稀です。ゲームをしたり、読書をしたり、仲間と遊んだり普通の家族の中の一人という感じで過ごします。

自分の意思で学園に来るこどもはいません。家族や友達、地元の故郷と別れてやってきます。学園に来る理由は、家庭の経済的な事情や大人からの虐待など、こどもたち自身では解決できないものばかりです。親からの愛情が足りていないことで、関わり方が難しい子もいます。大人への不信感から大人を試す行動もあります。逆に知らない大人に対して無条件になつてしまったりと、課題があるこどもたちもいます。そんな子たちも、園でごく普通の家族としての生活を通じて、他人との距離感をつかみ、こわばったものがほぐれていくのです。

園のこどもたちはどんな困難を抱えていますか？

困難のひとつは暴力です。自分の思い通りにならないことに対して、暴力で解決しようとする場面が見られます。こどもに「何が自分の中で問題なの？」と聴くと「ダメだと分かっているけど怒りが先行して手が出てしまう」と言います。年上の子たちのそういう状況を見て、自分の願いを聞き入れてもらうための表現として学んでしまうところもあります。本来守ってくれる存

在の大人からの暴力で一緒に暮らせなくなってしまう。しかし自分自身も暴力を振るってしまうという状況に陥っています。どこかでその連鎖を断ち切らなければいけないと思います。ですから彼らと関わる時には暴言・暴力を用いないコミュニケーションに気をつけています。できないことを否定し続けるのではなく、具体的に直した方がよいことを伝え、練習し、できたら褒める。そういう関係を積み重ねる中で、信頼が生まれていくのです。自分の感情をコントロールするには「できた」経験をたくさん積み重ねることが必要なんです。

キャンプに参加したことでこどもたちにどんな変化がありましたか？

以前より、料理を手伝ってくれるようになったと思います。今回で参加3回目の子は、今年の山賊キャンプは陰で支えるという目標を立てました。これまで自分が楽しむことがメインでしたが、みんなのやりたいことも応援したいという意識が生まれている様子に驚きました。自分のことだけでなく周りが見えるようになり、みんなで気持ちよい場をつくることに意識が向くようになったのは大きな変化でした。

園の外にでかけること、いつもとは違うフィールドでの活動でした。こどもたちの様子で気づいた点がありますか？

こどもたちがやりたいことに没頭できるのはとても良かったです。いつもは、大人の決めた限られた中からこどもたちが選ぶけれど山賊キャンプはやりたいことを自分自身で出し、そしてどうやって実現するか考え行動するという生み出す体験に繋がって行くのが良かったです。また、自己決定の場があることが自分のやりたいことだけでなく、他人のやりたいことも尊重し対話で進めていく土台になっていると感じました。



担当ディレクター
矢加部優（バズ）

「ずっと楽しみにしてた！」の元気な声からキャンプが始まり、初日から肝試しや野宿、二日目は川遊びや工作を心行くまで満喫し遊びつくしました。「山賊キャンプでやりたいことを全部やるんだ」という熱量は想像以上でした。この取り組みが始まって3年目になりますが、こどもたちが年々前のめりに変化している様子を感じます。この活動によって、自分の未来は自分でつくれるんだという実感を掴んでくれることを願います。



関連ブログ記事

▶ 開催レポート



会計報告

1 収入の内訳

	金額
寄付金	342,000
参加費(一宮学園負担分)	100,000
計	442,000

持続可能な事業とするため、一宮学園様にも一部負担をいただいております。

収支差額の38,174円は来年度の事業に充てます。

2 支出の内訳

科目	説明	金額
企画準備費	キャンプ準備費	80,000
スタッフ人件費	キャンプ運営及び事務人件費	264,000
消耗品費	キャンプ使用物品	10,356
食材費	食材費 (引率スタッフ含む)	26,383
利用料	キャンプ場利用料	2,600
参加者保険代	保険代 (引率スタッフ含む)	5,317
印刷・発送代	報告書印刷代・発送費	15,170
	計	403,826

皆様からの温かいご支援をよろしくお願いいたします

来年度も引き続き児童養護施設のこども対象キャンプを開催いたします。
引き続き応援をお願いいたします。

目標額

367,500 円

寄付期間

2024.9.26
～ 2025.1.8

長野県みらいベース

寄付はこちらから



※寄付金の税制控除が受けられます

○ 通常寄付

団体に対しての寄付も募集しております。いただいた寄付金はこどもや青年向け事業の活動資金として活用いたします。

また寄付いただいた皆様には年間報告書を送付します。

① 同封の振込用紙似て寄付

② QRコードから寄付サイトにて寄付

※グリーンウッドは認定NPOではないため寄付控除は受けられません。あらかじめご了承ください。



○ 古本・不要なブランド品で応援

お家で不要になった古本や着なくなった服、眠っているブランド品の買い取り代金そのままグリーンウッド寄付になります。(送料無料)

古本買取



チャリボン
(by バリューストックス)

洋服やブランド品



Brand Pledge
(by Brandia)

○ 企業版ふるさと納税

国が認定した地方公共団体の地方創生の取り組みに対し、企業が寄付を行った場合に、法人関係税から税額控除する制度です。泰阜村への企業版ふるさと納税は、グリーンウッドの支援として活用されます。



【紹介チラシ】

NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター

〒399-1801 長野県下伊那郡泰阜村 6342-2

TEL:0260-25-2851/Mail:info@greenwood.or.jp

HP:www.greenwood.or.jp